

特定非営利活動法人 市民社会創造ファンド

# 2007年度 事業報告

(2007年10月1日—2008年9月30日)

2008年12月11日

## はじめに － 2007年度の事業を終えて－

### ○企業との協働による助成プログラム6件は順調に推移

企業との協働による助成プログラムは、昨年度と同様、6件を実施した。これらの実施経過を一覧にしたのが表1、各プログラムの実施概要を総括的に示したのが表2である。個別に要点を記せば以下のようなになる。

「ファイザープログラム」は、07年7月には第2期の新プログラムによる新規の公募を開始、合わせて8月には従来の第1期プログラムによる継続助成も最終年として応募案内を行い、12月にそれぞれの助成を決定した。08年8月には、第2期プログラムについて2回目の新規公募を行い、8月には第2期プログラムで最初の継続助成の応募案内を行った。第2期プログラムが軌道に乗り始めた年であった。

「中央ろうきん助成プログラム」は、基本的な枠組みを継承しながらも、従来のチャレンジ助成をステップアップ助成にするなど、一部改訂して08年1月に公募を行い、5月に助成を決定した。

「フィリップ モリス ジャパン 市民活動～住民活動助成」は、05年に立ち上げ助成からスタートして展開助成を行ったチームの中から、07年12月に1件の特別助成を決定した。第2回の特別助成に当るもので、次年度の第3回によって、この助成プログラムは終了する。

「ダイワSR I ファンド」助成プログラムは、05年に始まったもので、07年も継続助成を含めて公募をおこなった。NPOスタッフの育成を目的とした通常活動の人件費助成という新しい仕組みとして定着しつつある。

「Panasonic NPO サポート ファンド」は、07年も前年に準じて7月に公募を開始し、12月には選考を終えた。08年7月には、第3回の公募を行い、現在選考中である。

「花王・コミュニティミュージアム・プログラム」は08年4月に第2回の公募を行い、8月末には助成対象を決定、10月はじめに第2回の贈呈式と交流会を行った。

### ○助成の中間段階で報告と交流の機会をもつ試み

今年度は2つの助成プログラムで、助成中間段階における報告と交流の機会をもった。

一つは花王コミュニティミュージアム・プログラムで5月に実施、もう一つはファイザープログラムで8月に実施した。何れも各社がもつ研修センターにおいて1泊2日の合宿形態で行い、第1日は各チームの中間報告、第2日はグループごとの交流による研修とし、研修では「ピア・コンサルテーション」の考えによって、お互い同士がそれぞれの課題を出し合い、それに助言し合う形のワークショップを行った。これらには、各助成対象団体から複数のメンバーに参加してもらった。交流や研修の成果が個人に蓄積されるだけでなく、組織の蓄積となるよう配慮したものである。その旅費や滞在費は助成を行っている企業が負担した。

助成を受けた団体の交流機会としては、当初の贈呈式における交流や助成終了後の報告会における交流はよくあるが、半年の活動実績を踏まえ、残る半年の活動計画を見据えながら交流を深めることは、これらとは別の意義があるように思われる。各助成対象団体の活動は多様であるとはいえ、同じプログラムの助成を受けた団体だけに、共通する課題が多いからである。このよう

な中間の交流研修がどのような効果をもたらすかは今後のフォローによるが、すでに2つのプログラムとも、この交流を機会に団体同士の交流が始まっている。資金の助成とともに、その資金を生かすためのさまざまな試みが、今後とも重要と思っている。

#### ○新たな個人の寄付による基金

個人の寄付によるプログラムとしては「SSCSインターンシップ奨励プログラム」があって、すでに第6期インターンが活躍しているが、今年度は新たに日系米国人から、株と現金によるまとまった寄付を受け入れた。

寄付の目的は、生活上の困難を抱える人に対する救援を行うことにあるが、年度末の9月に受け入れたため、どのようなプログラムとして効果的に活用するかは、今後検討していく計画である。企業の社会貢献とは異なる発想で、新しい形の助成プログラムが展開できないかと考えている。

2008年12月

(運営委員長 山岡 義典)

## 運営に関する事項 (2007年10月1日－2008年9月30日)

### 1. 総会の開催

#### ○2007年度通常総会

日時：2007年12月14日

<議題>

- ・ 2006年度事業報告および決算の承認
- ・ 2007年度事業計画および予算の承認
- ・ 次期運営委員・監事の選任

### 2. 運営委員会（理事会）の開催

#### ○第18回運営委員会（2007年度通常総会と合同）

日時：2007年12月14日

<議題>

- ・ 2006年度事業報告（案）および決算（案）の承認
- ・ 2007年度事業計画（案）および予算（案）の承認
- ・ 次期運営委員・監事候補の選任

#### ○第19回運営委員会

日時：2008年1月15日

<議題>

- ・ 運営委員長の選任

#### ○第20回運営委員会

日時：2008年6月6日

<議題>

- ・ 2007年度事業の経過報告
- ・ 事業および組織運営に関する意見交換

#### ○第21回運営委員会

日時：2008年9月29日

<議題>

- ・ 2007年度事業経過および決算見込みの報告
- ・ 2008年度暫定事業計画および暫定予算の承認
- ・ 運営委員会の体制について（副運営委員長2名の選任）

### 3. 会員および寄付の拡大

- ・ ファンドの意義を積極的に広報し、賛助会員の獲得をめざす努力をしたが十分な成果を得ていない。
- ・ NPO支援組織の基盤強化事業の実施と充実に向け、個人、企業、財団等に呼びかけ、随時寄付や助成を募る方針であったが、実施できていない。

### 4. 年次報告書の公開

2006年度事業報告・決算報告を、Webサイトにおいて公開した。

## 事業に関する事項 (2007年10月1日－2008年9月30日)

### (1) 助成事業

\*各プログラムの年次は、助成開始日の年によって表示している。これまで一部において公募開始日の年で表示していたものがあつたが、今回からは改めたので注意していただきたい。

#### ○ファイザープログラム

(テーマ：心とからだのヘルスケアに関する市民活動支援<第1期>)

(テーマ：心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援<第2期>)

\*このプログラムは、ファイザー株式会社の助成事業を当ファンドが協力して行うものである。

#### 1. <第1期>2007年継続助成のフォロー

助成対象13件(助成2年目・8件、同3年目・5件)について、07年12月31日に助成期間が終了し、08年2月末日までに完了報告書の提出を受けるなど、プロジェクトのフォローを行った。

#### 2. <第1期>2008年継続助成の実施とフォロー

応募案内・選考は前年に準じて実施し、07年11月下旬に、以下のとおり助成を決定した。08年7月末日までに中間報告書の提出を受け、09年2月末日までに完了報告書の提出を受ける予定。

- ①応募総数 : 16件
- ②助成件数 : 11件
- ③助成総額 : 2,000万円(1件あたりの上限300万円)
- ④助成期間 : 2008年1月1日～12月31日(1年間)
- ⑤選考体制 : 以下のとおり。◎は選考委員長
  - ◎赤塚光子 立教大学コミュニティ福祉学部 教授
  - 沢田貴志 シェア＝国際保健協力市民の会 副代表理事／医師
  - 諏訪 徹 全国社会福祉協議会中央福祉人材センター 副部長代理
  - 田尻佳史 日本NPOセンター 理事・事務局長
  - 島谷克義 ファイザー株式会社品質・安全性管理統括部 統括部長

#### 3. <第2期>2008年新規助成の実施とフォロー

応募案内・選考は、第1期プログラムに準じて実施し、07年11月下旬に、以下のとおり助成を決定した。08年7月末日までに中間報告書の提出を受け、09年2月末日までに完了報告書の提出を受ける。なお、08年7～8月には現地インタビューを行いプロジェクトの進捗状況を確認する予定であつたが、同社と検討・見直しを行い、新たに8月2日・3日に同社研修施設にて中間報告会を開催し、プロジェクトの進捗状況を報告いただくとともに、プロジェクトの実施において各団体が抱える課題について互いに学びあう交流の機会をもつ

た。

- ①応募総数 : 177 件
- ②助成件数 : 15 件
- ③助成総額 : 2,903 万円 (1 件あたりの上限 300 万円)
- ④助成期間 : 2008 年 1 月 1 日～12 月 31 日 (1 年間)
- ⑤選考体制 : 以下のとおり。◎は選考委員長、○は専門委員
  - ◎武井秀夫 千葉大学文学部 教授
  - 諏訪 徹 全国社会福祉協議会中央福祉人材センター 副部長代理
  - 田尻佳史 日本NPOセンター 理事・事務局長
  - 湯本 明 ファイザー株式会社経営企画部門 統括部長
  - 大木幸子 杏林大学保健学部 教授
  - 小野純平 法政大学現代福祉学部 教授

#### 4. <第 2 期>2009 年新規助成の検討と実施

新規助成については、07 年度助成の実施結果を踏まえて、助成内容、運営方法、選考体制等についてファイザー社と共に検討・見直しを行った。その結果、従来よりスケジュールを早め、08 年 5 月から公募広報を開始した。6 月 2 日～16 日に 183 件の応募を受け付け、11 月下旬に選考結果の公表を行う。

#### 5. <第 2 期>2009 年継続助成の検討と実施

継続助成については、第 1 期プログラムでの継続助成の実施結果を踏まえて、助成内容、運営方法、選考体制等についてファイザー社と共に検討・見直しを行った。その結果、従来よりスケジュールを早め、08 年 8 月に応募案内を送付し、08 年 8 月 28 日～9 月 4 日に 12 件の応募を受け付け、11 月下旬に選考結果の公表を行う。

### ○中央ろうきん助成プログラム

(テーマ:個性が輝く“ひと・まち・くらし”づくり)

\*このプログラムは、中央ろうきんの助成事業を当ファンドが協力して行うものである。

#### 1. 2007 年助成のフォロー

助成対象 40 件(第 1 種助成 35 件、第 2 種助成 : 5 件)については、07 年 6 月 1 日より 1 年間の助成が始まり、12 月 20 日までに中間報告書の提出を受け、08 年 5 月 31 日の助成期間終了後、6 月 29 日までに完了報告書の提出を受けた。なお、第 1 種助成 1 年目の 18 件については、07 年 12 月～08 年 2 月に現地インタビューを実施し、各プロジェクトの進捗状況の確認など、フォローを行った。

#### 2. 2008 年助成の検討と実施

07 年に実施した 1 都 7 県の NPO 支援組織へのインタビュー調査の結果と過去 5 年の助成実績にもとづき、助成内容や運営方法、選考体制等について、中央労働金庫と共に検討・見直しを行った。その結果、これまで行ってきたチャレンジ助成(上限 100 万円)を廃止し、2008 年公募から新たにステップアップ助成(上限 100 万円)を設け、スタート助成で 3 年または

2年間助成を受けた団体のみを応募資格団体とすることにした。これにより、1案件につき、最多で4回（4年間）の助成（最高で計190万円）を受けられることとなった。

公募・選考は前年に準じて実施し、4月中旬に、以下のとおり助成を決定した。

- ①応募総数 : 360件
- ②助成件数 : 41件（スタート助成1年目：24件、同2年目：8件、同3年目：4件、ステップアップ助成：5件）
- ③助成総額 : 1,566万円（スタート助成1件あたりの上限30万円、ステップアップ助成1件あたりの上限100万円）
- ④助成期間 : 2008年6月1日～2009年5月31日（1年間）
- ⑤選考体制 : 以下のとおり。◎は選考委員長
  - ◎谷口奈保子 ぱれっと 理事／ぱれっとインターナショナル・ジャパン 代表
  - 鹿住貴之 JUON（樹恩）NETWORK 事務局長
  - 高橋 均 労働者福祉中央協議会 事務局長
  - 永田麻美 「空ト風ニ」編集長
  - 横田能洋 茨城NPOセンター・コモンズ 常務理事・事務局長
  - 山口郁子 中央労働金庫総合企画部CSR企画 次長

## ○フィリップ モリス ジャパン 市民活動～住民活動助成

（テーマ：生きる場としてのコミュニティづくり）

\*このプログラムは、フィリップモリスジャパン株式会社の助成事業を、当ファンドが協力して行うものである。

### 1. 第1期「特別助成」のフォロー

特別助成の対象1件について、助成1年目の進捗状況について確認を行った。

### 2. 第2期「展開助成」のフォローと「特別助成」の実施

展開助成の対象6件について、07年9月30日に2ヶ年の助成期間が終了し、10月31日までに完了報告書の提出を受け、11月30日に完了報告会を実施し、助成対象団体、選考委員、事務局の参加のもと、各プロジェクトの成果および課題を確認するとともに、プロジェクトに関する情報交換やアドバイスを行った。

特別助成の応募案内・選考は第1期に準じて実施し、12月下旬に、以下のとおり助成を決定した。

- ①応募総数 : 6件
- ②助成件数 : 1件
- ③助成総額 : 500万円
- ④助成期間 : 2008年1月1日～12月31日（1年間）
- ⑤選考体制 : 以下のとおり。◎は選考委員長
  - ◎播磨靖夫 たんぼぼの家 理事長
  - 安藤周治 ひろしまNPOセンター 代表理事
  - 桜井陽子 横浜市男女共同参画推進協会 事業本部長
  - 萩原なつ子 立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科 教授



林 泰義 計画技術研究所 所長  
水品朱美 フィリップ モリス ジャパン株式会社 シニアカウンセラー  
山田 實 菜の花プロジェクトネットワーク 事務局長

### 3. 第3期「展開助成」のフォローと「特別助成」の検討

展開助成の対象7件について、07年10月31日までに中間報告書の提出を受け、12月12日に中間報告会を開催し、助成対象団体、選考委員、事務局の参加のもと、各プロジェクトの助成1年目の進捗状況を確認するとともに、プロジェクトに関する情報交換やアドバイスを行った。今後、08年9月～10月に現地インタビューを実施し、助成2年目の進捗状況を確認し、9月30日の助成期間終了後、10月31日までに完了報告書の提出を受けるなど、プロジェクトをフォローする。

特別助成の実施については、第2期の実施経験を踏まえて検討し、08年11月以降に応募案内を行い、選考の予定。

### ○「ダイワSRIファンド」助成プログラム

(テーマ: “いのち” に取り組むNPOスタッフの育成)

\*このプログラムは、大和証券グループ3社(大和証券投資信託委託株式会社、大和証券株式会社、大和証券SMB C株式会社)の寄付および株式会社大和証券グループ本社の協力によって、当ファンドが実施しているものである。

#### 1. 2007年助成のフォロー

07年助成の対象6件(新規4件、継続2件)は、07年4月1日から1年間の助成を開始し、08年3月31日に助成期間を終了した。なお、1件は助成期間を半年延長した。

この間、スタッフ育成レポート(3ヵ月ごと)、中間インタビュー(07年10月中旬)、完了報告書(08年4月末日)、終了インタビュー(08年に継続助成対象団体を除く)などを通じて進展状況をフォローした。

また、07年助成の結果を大和証券グループ4社に報告した(08年7月)。

#### 2. 2008年助成の実施とフォロー

08年助成プログラム(第3回)は前年に準じて07年10月から公募を実施し、以下の通り助成を決定した。これらの助成対象に対し、計画変更への対応、スタッフ育成レポートのとりまとめなどのフォローを行った。

- ①応募総数 : 44件(新規助成41件、継続助成3件)
- ②助成件数 : 5件(新規助成3件、継続助成2件)
- ③助成総額 : 946万円(1件あたりの助成金の上限200万円)
- ④助成期間 : 2008年4月1日～2009年3月31日(1年間)
- ⑤選考体制 : 以下の通り。◎は選考委員長

◎島田京子 日本女子大学 事務局長

金田晃一 大和証券グループ本社 CSR室 専任担当

戈木クレイグヒル滋子 首都大学東京健康福祉学部 教授

長沢恵美子 日本経済団体連合会社会第二本部 日本経団連1%クラブ コーディネーター

### 3. 2009年助成の検討

09年助成プログラム（第4回）については、これまでの取り組み状況などを踏まえ、株式会社大和証券グループ本社と協議の上、助成内容、選考体制などについて見直し・検討を行い、助成開始の準備を行った。

#### ○「Panasonic NPOサポート ファンド」

*（テーマ：子どもたちの健やかな育ちを応援するNPOの基盤強化）*

\*このプログラムは、松下電器株式会社の実施する助成事業に、ファンドが協力して行うものである。

#### 1. 2007年助成のフォロー

助成対象12件の内、10件は07年12月31日までにプロジェクトが終了し、08年2月末日までに完了報告書の提出を受けた。2件は助成期間を延長し、08年3月31日までにプロジェクトが終了し、完了報告書の提出を受けた。また、3月21日には成果報告会の開催に協力し、各事業の成果や課題を確認するとともに、団体同士で情報交換やアドバイスなどを行った。

#### 2. 2008年助成の実施とフォロー

**応募案内**・選考は前年度に準じて07年6月に公募を実施し、07年12月中旬に、以下のとおり助成を決定した。08年7月に中間インタビューを実施し、各プロジェクトの進捗状況について確認するとともに、7月31日までに中間報告書の提出を受けた。今後、09年2月末日までに完了報告書の提出を受けるなど、フォローを行う。

- ①応募総数 : 255件（新規245件・継続10件）
- ②助成件数 : 13件（新規10件・継続3件）
- ③助成総額 : 1,500万円（1件あたりの上限150万円）
- ④助成期間 : 2008年1月1日～12月31日（1年間）
- ⑤選考体制 : 以下のとおり。◎は選考委員長

◎明石要一	千葉大学教育学部 教授
大森智恵子	子ども劇場千葉県センター 事務局長
岸本幸子	パブリックリソースセンター 理事・事務局長
下澤 嶽	国際協力NGOセンター 事務局長
三好悠久彦	リベラヒューマンサポート 理事長
小西ゆかり	松下電器産業株式会社 理事・社会文化グループ グループマネージャー

### 3. 2009年助成の検討と実施

08年3月11日にプログラム検討懇談会を開催し、選考委員に助成プログラムについての意見や提案を伺った。これを踏まえ、新規助成および継続助成の選考方法や運営方法などについて検討し、全ての応募団体に一次選考結果をお知らせするなどの改定を行った。新規助成については6月9日に公募広報を開始し、7月31日に応募を締め切り、8月下旬に一次選

考会を開催した。また、継続助成については7月7日に応募案内を送付し、8月28日に応募を締め切った。新規・継続とも12月までに選考し、助成を決定する予定。

## ○「花王・コミュニティミュージアム・プログラム」

(テーマ：博物館・美術館等を拠点とした市民活動の応援)

\*このプログラムは、花王株式会社の実施する助成事業に、当ファンドが協力して行うものである。

### 1. 2007年助成のフォロー

07年助成対象16件は、07年10月1日から1年間の助成を開始し、第2回の交流プログラムとして、08年5月16日・17日に花王株式会社の霞ヶ浦研修所にて合宿形式でステップアップ・ミーティング（中間報告・交流会）を開催し、各助成チームの中間報告を行うとともに、プロジェクト推進上の課題等について相互に話し合った。

### 2. 2008年助成の実施とフォロー

08年助成（第2回）は、新たに継続助成を含めて4月に公募を実施し、8月末に以下の通り助成を決定した。

- ①応募総数 : 90件（継続助成14件、新規助成76件）
- ②助成件数 : 24件（継続助成8件、新規助成16件）
- ③助成総額 : 1,500万円（1件あたりの活動助成金の上限50万円）
- ④助成期間 : 2008年10月1日～2009年9月30日（1年間）
- ⑤選考体制 : 以下の通り。◎は選考委員長
  - ◎樺山紘一 東京大学 名誉教授／印刷博物館 館長
  - 太下義之 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 芸術・文化政策センター長
  - 片山正夫 財団法人セゾン文化財団 常務理事
  - 布谷知夫 滋賀県立琵琶湖博物館 上席総括学芸員
  - 嶋田実名子 花王株式会社コーポレートコミュニケーション部門 社会貢献部長

本プログラムでは当該分野の市民活動の普及・啓発を目指し、助成対象者相互の交流も積極的に支援することとしている。その一環として08年10月上旬に実施する第1回交流プログラムとしてのスタートアップ・ミーティング（贈呈式と交流会）の企画・準備を行った。

## ○新規プログラムの企画開発への対応

以上の他、企業や財団からの相談や打診、個人の寄付の相談などがあり、随時相談に応じつつ、本ファンドの趣旨にあったものであれば新たな助成プログラムの企画開発とその運営に積極的に取り組むつもりで対応してきた。

## ○ハマダ基金の受け入れ

以上の対応の一環として、ハワイ在住の日系米国人のハマダ氏からの申出により、生活上の困難を抱える人への支援を目的に、株式および現金による寄付を受け入れた。これにより特別会計としてハマダ基金を設け、新たな助成プログラムを検討することにした。

## (2) インターンシップ事業

○SSCS (Small Schools for Civil Society) インターンシップ奨励プログラム

### “NPOの現場を市民社会の小さな学校に”

\*このプログラムは、個人の篤志家の寄付によって、10年間の予定で当ファンドが実施しているものである。

#### 1. 第5期インターン

第5期インターン(10名)と受け入れ団体(7団体)担当者の参加による「中間報告会」を07年11月15日に開催し、9ヵ月で活動を修了する4名の「インターン修了報告会」を08年3月9日に開催した。また、同3月に第4期修了報告書を発行した。なお、第5期新規受け入れ団体(3団体)を08年2月に訪問し、本事業について担当者との意見交換を行った。6月8日には第5期インターン修了報告会を開催した。

#### 2. 第6期インターン

第6期の公募・実施にあたっては、SSCS運営委員長とこれまでの内容について検討を行うとともに、インターン修了生有志と月1回程度会合を持ち、修了生の経験や意見を生かすよう考慮した。公募に際しては、第5期の受け入れ団体のうち2団体が3年間の受け入れを終えて期間満了となったため、新たに3団体に受け入れを依頼した。第6期受け入れ団体は以下のとおり。

公募・選考は、前年度より少し早めて実施し、第6期インターンとして10名を決定した。08年6月7日に事前研修会、6月8日に入校式を開催し、活動開始時期も前年度より早め、6月10日から1年間ないしは9ヵ月間とした。

また、大学関係者(職員)からの申し出により、学生によるNPOでのインターンシップ活動と学生の社会性の発達との関係性に関する調査に協力することとなった(2008年6月～2009年6月)。

#### ●第6期受け入れ団体：8団体(うち、1団体は受け入れなし)

彩星学舎(さいたま市)	[4・5・6期]
さなぎ達(横浜市)	[5・6期]
たすけあいの会ふきのとう(四街道市)	[5・6期]
北海道NPOサポートセンター(札幌)	[5・6期]
水俣フォーラム(新宿区)	[6期]
きょうとNPOセンター(京都市)	[6期]
大阪ボランティア協会(大阪市)	[6期]
市民社会創造ファンド(千代田区)	[1・2・4・5・6期]

#### 3. S S C S OB/OG有志の会

OB/OG有志による会合が都内を中心に11回開催され、ブログ作成、情報提供・交流のためのハガキプロジェクトの実施、第6期応募要項の作成協力、第6期応募説明会企画・開催、「NPOと大学フォーラム・分科会」(さいたま市)スピーカー、取材対応などを行った。

#### 4. S S C S 運営委員会

年2回程度開催する予定であったが、多忙等のため実施できなかった。

#### (3) 自主プログラム

##### **○ N P O 支援組織スタッフ強化助成**

前年度に引き続き、市民社会創造ファンドへの会費や寄付や印税収入などを原資に、民間の N P O 支援センター・スタッフの力量形成を目的とした、研修プログラムの実施経費に対する助成を行う予定であったが、財源の不足により本年度は実施できなかった。

##### **○ 自主事業（市民活動の「助成担当者」交流・研修会）の開催**

市民活動や N P O の助成に取り組む助成財団や企業、行政機関等の実務担当者の交流・研修を狙いとした「市民活動の“助成担当者”交流会」をこれまで5回、実行委員会形式にて実施（第5回目は当ファンド設立5周年記念事業として開催）してきた。本年度は、実施体制や対象者の範囲などについてはさらに具体的に検討して開催する予定であったが、多忙のため実施できなかった。

#### (4) その他

- S S C S (Small Schools for Civil Society) インターンシップ奨励プログラムによる、第5期インターン2名をそれぞれ08年3月と6月まで継続して受け入れるとともに、08年6月から第6期のインターン(1名)を受け入れている。
- Web サイト (<http://www.civilfund.org>) については、内容の更新等、必要なメンテナンスを適宜行い、個人情報の保護に留意しつつも、積極的に市民社会創造ファンドの諸活動の公開に取り組んだ。
- 市民社会創造ファンドの5年の実績を踏まえ、より多くの企業・財団・個人に対して活動内容や助成プログラムを積極的に広報していくことを目的に、広報パンフレット『市民社会の創造に向けて一企業と取り組む6つの市民活動助成』(A4版16ページ)を作成、08年5月に1,000部発行した。発行に当たっては、助成プログラムを協働運営している企業の協賛を得た。
- 08年2月に山岡・雨宮共編著による『N P O 実践講座 [新版]』(ぎょうせい)が刊行され、08年4月、その初版印税をファンドが受け取った(収入項目としては寄付ではなく事業収入)。また、08年8月には、既刊の山岡編著による『N P O 基礎講座 [新版]』の増刷に伴う印税を受け取った。これらの印税は N P O 支援組織スタッフ強化助成に用いる予定としていたが、収入の時期の都合もあり本年度は実施できなかった。